

市村久子先生のお話会「チェコの絵本・チェコの人形・チェコの旅」

4月30日、西荻窪のアトリエ・リネアにて、市村先生のお話会が開かれました。いつもながらの情熱的で優しくユーモアあふれるお話に、会場はしばしば笑いに包まれ、また、お持ちくださったたくさんの方の美しい絵本を見せていただくたびにため息がもれました。

中でもヨゼフ・チャペクとカレル・チャペク兄弟のお話は、心を打つものでした。弟のカレル・チャペクは「長い長いお医者さんの話」、「園芸家の12ヶ月」などで日本でもおなじみの作家です。彼の作品のほとんどに兄のヨゼフが挿絵をつけています。また、ヨゼフ自身の作品に、「こいぬとこねこはゆかいななかま」があります。自身の二人の娘のために書いた本で「なかよしのふたりがどんなおもしろいことをしたか」と副題にあります。会場で先生がページを繰ってお話してくださいましたが、おっとりとしたユーモアがほほえましく、先生の作品への愛が私たちにも伝染してくるようでした。

カレルは幼い頃から患っていた脊椎の病気が悪化して、1938年48歳の若さで世を去りました。ナチスの軍靴の音が迫ってくる時代、治療を拒んで自ら選び取ったかのように亡くなった時、彼の名はナチスの反対派と目された人々のリストの上から3番目に載せられていたそうです。ヨゼフは収容所に送られ、1945年に終戦の日を目前にして亡くなりました。妻は、彼がどこの収容所にいるのかさえ知らされず、終戦後にほとんどすべての収容所を訪ねさがし歩いたということです。チャペク兄弟の生きた時代の困難さとその中で彼らが成し遂げた仕事の尊さを知り、ぜひ、あらためて彼らの作品を読んでみたいという気持ちにさせられました。



1989年にはじめて社会主義体制下のチェコを訪ねられたとき、先生は子どもの本の質の高さに驚かれたそうです。目抜き通りの一等地にはアルバトロスという子どもの本の出版社があり、1階はお店、2階は編集室、地下には人形劇場がありました。2度目の訪問は1995年、自由主義国に変わったチェコの目抜き通りからアルバトロスはなくなり、代わりに高級ブティックがその場所を占めていたとのこと。以前のチェコの絵本の質の高さを支えていたのは作家の層の厚さ、彼らの芸術性の高さに加えて、高度な印刷技術を駆使して上

質の紙を用い、営利を目的としないで子どもに質のよいものをあたえるという思想でした。その伝統が消えてしまうとすれば、残念なことです。すばらしい文化が今後どのように受け継がれてゆくのでしょうか。またお話をうかがう日が楽しみです。

チェコの人形劇のすばらしさには定評がありますが、5月7日、8日にNHKBS2でイジー・トルンカ作の人形劇アニメーションの名作が放映されるという情報を市村先生から教えていただきました。ご関心ある方は、ぜひご覧ください。佐藤治子

ウォルドルフ人形 作品展のおしらせ

5月1日(金)～6月22日(月)の金・土・日・月・祝 11:00～17:00
ギャラリー喫茶くらら 妙高市関山もとはら TEL: 0255-82-2305 担当: 志村智美
5月14日(木)～18日(月) ウォルドルフ人形教室展 ガラリー・アングルワン
最寄り駅: 地下鉄千歳橋駅 11:00～17:00 TEL: 06-6955-1527 担当: 中野久仁子

いずみの学校6年生の人形作り(後編)

手芸専科 藤田聡子

真新しいサーモンピンクのニットジャージーに型を写し、1～2ミリほど小さな返し縫で型紙どおりの線縫いを縫っていくことに1学期のほとんどを費やす。縫い終わる頃には大方の子が返し縫の達人になっていて、それぞれが技術面での進歩と共に集中力や我慢強さを身につけている。2学期には大量の羊毛と格闘するが、クライマックスは最も大きな頭のボールを作るとき。「先生、手が痛いよー！」と教室のあちこちから悲鳴が聞こえてくる。ボールやロールにした羊毛をニットジャージーに詰める段では、「こんなに細い布にほんとにこんなの入るの？」と半信半疑の子ども達だったが、羊毛がすっぽり収まって腕や脚が形になると、「かわいいーい！」の大合唱で、返し縫いをひたすらしていた時とは俄然ムードが変わる。頭のボールに額・目のくぼみ・あご・うなじを形作るあたりではいっばしの人形作家の気分で自画自賛、両手が繋がると、マフが胴体に収まると、いよいよ人形の全体像が姿を現す。頭と胴体の接合は今まで見たこともない長い針を使って神経の磨り減るような作業だ。その後肩を縫い、腕の付け根をぐるりと縫い綴じれば、あとはそれぞれが希望の髪形を実現させていく段階を残すのみとなり、その頃には季節は冬に変わっていて窓の外は雪景色だ。最後に楽しい散髪が待っているが、ここで意外にも子ども達の手は震えてしまう。今度は髪にハサミを入れるのが怖くて「先生、切れないハサミちょうだい」と言う子がいて、大笑いしてしまった。人形作りの行程を文章にしてみると簡単なようだが、1年間子ども達は途中投げ出したくなるほどの苦労を続けてくる。だから最後の散髪に向かう緊張感が私には痛いほど伝わってきて、「大丈夫、あなたが最初から作ってきたんだから、全部知っているはず。失敗してもあなたが直せるんだよ」と声をかけ、心の中で手を合わせる。出来上がった身長約50センチの大きな人形を彼等はいとおしそうに眺め、男の子でさえも抱きしめたりする姿は毎年感動的だ。



6年生で人形を作るこの意味は何なのか、子ども達はこの1年間で何を獲得するのか、実践しながら今も考え続けている。6年生のテーマとしての「思春期に入ろうとする彼等が自分の内面にあるものを外に顕し出そうとする」ことを助ける、ということがある。また、世界史では古代ローマを学ぶが、ローマ人は進軍するときに目的地に着くまでの速度や歩数までを決め、そのとおり実行したという驚異の人々だ。これをふまえれば、厳然とした規則をしっかりと守りながら作業を進めることも彼らの発達段階にあったことだと言える。しかし私は毎年彼らと共に歩みながら、人形作りが彼らに与えるのは辛抱強さ、それは自分を超えていこうとする強さであり、人間が簡単には超えられないものへの挑戦、一生をかけて挑戦し続けることの第一歩に他ならないように思う。人形作りの全工程が、まだ幼さを残した彼らにとって挑戦の連続なのだから。だからこそ1年の始まりに私は6年生に厳かな気持ちで「これから1年をかけて人形を作ります」と告げることが出来るのだと思っている。

訂正 いずみの学校の校舎について、先月号の「ばたぼん通信」の中で“廃校になった中学校”とありましたが、正しくは中学校移転に伴う空き校舎でした。まちがいがりましたことをお詫びして訂正いたします。

★ホームページが、近日中にリニューアルされます。どうぞお楽しみに！ 編集担当: 佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ
<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

スウェーデンひつじの詩舎
スペース ベシのあたらしいふく
〒244-0001 横浜市戸塚区鶴が丘15-2
TEL/FAX 045-881-6905/6905
佐々木のアトリエ TEL/FAX 045-811-6708
相模原市金橋日 担当: 寺田裕子045-881-7035